活き活き生きる

～終の棲家はふぁみらんど～

グループホーム　らくや

※発表に際し、対象者へは研究の目的等の説明を行い了承を得ています。

Ⅰ.はじめに

超高齢化社会への突入で身寄りの少ない高齢者は馴染みのない環境、人との生活を余儀なくされている

⬇

〈馴染みのない場所〉から

〈馴染みのある場所〉へ

心を許し安心できる関係へ

Ⅱ.方法

～事例紹介～

A氏

- 女性　　80歳代
- 要介護度　　1
- 認知度　　Ⅱb
- HDS－R　　16点(H.30.10.18)
- 現病名　　認知症、統合失調症

- これまでの経緯

夫、実母との3人暮らし

H26年　　夫の入院、他界

実母の施設入居

独居での在宅生活困難

同年11月　ぺあれんと入居（実母と同施設）

H30年6月　実母他界

同年10月　らくやに転居

～方法～

①カレンダーの1日の役割を毎朝、職員と共に確認し実行する

9:00　洗濯干し
10:00　ラジオ体操
12:00　台拭き
16:00　食器拭き
　　洗濯畳み

～方法～

②行事予定は、月初めに本人がカレンダーに書き込む(外出、音楽活動、クラブ活動)

～方法～

③ぺあれんとでのクラブ活動への参加
（詩吟、絵画、書道）

④近所のスーパーへ買い物(週1回同行)

⑤排泄チェック表を作成し排便調整

～結果・考察～

①カレンダーの1日の役割を毎朝スタッフと共に確認・実行(9時洗濯干し・10時ラジオ体操・12時台拭き・16時食器拭き・洗濯畳み)

↓

①らくやでの役割を明確にし、繰り返す事で生活リズムが生まれ居間での時間が増えた。

～結果・考察～

②行事は、月初めに本人がカレンダーに書き込み参加する(外出、音楽活動、クラブ活動、買い物)

↓

②クリスマス会では、詩吟を単独で披露。運営推進会議では、参加者の前で挨拶された

～結果・考察～

③ぺあれんとでのクラブ活動への継続参加(詩吟、絵画、書道)

↓

③ぺあれんとでのクラブ活動を継続したことで、馴染みの環境の良い部分を維持できた

※感想を聴くようにすることで、どんな行事・活動だったかを説明され楽しそうに回想される姿がみれるようになった。

～結果・考察～

④近所のスーパーへ買い物(週1回同行)

↓

④買い物の時は、その日の献立を一緒に考えられるようになった。何が食べたいですか？では無く、ハンバーグor煮魚どちらが食べたいですか？等答えやすい質問に心掛け、直に選んでかごに入れてもらった。

～結果・考察～

⑤排泄チェック表を作成し排便調整

↓

⑤排便があるとゆったりと落ち着き笑顔も多く、夜間は良く休まれている事が分かった

※1月の終わり頃には、「化粧品が無い」との発言。用意すると口紅をされるようになった。役割、活動の維持が、生活を充実させ、らくやが生活の場として構築されつつある。その結果、夜間の睡眠の質向上と又、おしゃれをしたいという気持ちの引き出しに繋がったと思われる。

～まとめ～

・大切な家族との別れに対する孤独感・不安感
・住みかえに対する覚悟・不安

Ａ氏

ぺあれんと職員

・これまでの関係維持
・寄り添い

らくや職員

・新しい関係の構築
・寄り添い

～まとめ～

「私にはこんな処があるから一人になっても生きてゆける。ありがたいね。本当に幸せる。」

活き活きと生き
らくやを終の棲家に

らくやの理念
「お互い助け合っていつも笑顔で
楽しい我が家」

時代は変わろうとも
この理念をみんなで
守っていきたい

ご清聴ありがとうございました